



“ののかぜひろば”をみんなで楽しく盛り上げていきましょう！

9月に入っても暑い日が続きましたね。それでも、朝夕は秋らしく涼しくなってきました。“ののかぜひろば”ニュースでもお知らせしていますが、今年度は乳児・幼児の入れ替えをせず例年通りの実施で準備を進めています。

4月にはまだ、ハイハイで遊んでいたつくし組の子どもたちも、アンヨ、探索活動が楽しくなっています。あかちゃん時代を卒業し、自己主張まっさかりのたんぼぼさんは友だちと一緒にからだを動かすことがとても楽しくなっています。すみれさんたちは友だちとの繋がり遊びがうんと楽しくなってきました。夏のプールでの活動をたっぷり経験したくましくなった子どもたちの姿を保護者の皆さんに見ていただき、そして子どもたちの成長を喜び合いたいと思います。

また、今年度は2部の小学生・大人の競技も復活させ、少し交流し楽しめるよう計画をしています。

子どもたちにもう一人保育士を！

～保育士配置基準の引き上げを実現しよう！

署名を通して私たちの声を国や自治体へ届けよう～



子どもたちを守る保育士の配置基準は1948年に作られ、その後70年以上一度も変わっていません。4歳児5歳児それぞれ30人を保育士一人で見るという配置基準です。ののかぜ保育園場合で計算すると4歳児0.4人、5歳児0.4人、3歳児0.7人です。合計1.5人しか配置できません。

こうした状況の中、コロナの感染が拡大し、現場では職員が感染したり、家族が感染して仕事に出てこれずで、残った職員で保育現場を回すなどの実態があり、職員はギリギリの状態です。ただでさえ、厳しい労働実態の中、職員は疲弊状態になっているのが実態です。このままでは、職員の健康が守られない。結果子どもたちの安全を守る保育が出来ないという悪循環に陥っています。

保育現場へのアンケートでも以下のような回答が寄せられています。

☆子どもの自主性を育てたいが、安全面は守れるのかという点でいつも行動に制限を書けてしまう。保育士が沢山いれば、子どもの自由な発想や行動に寛大になれる。

☆保育士の数が少ない中で子どもたちを見ている時に、怪我や事故が多い。人の目を多くしようと思うと正規職員の休憩時間を減らさざるを得ない。

こうした中、愛知では「子どもたちのもう一人保育士を！」のスローガンを掲げ、配置に基準の改善を求める運動を始めました。玄関先や中央掲示板にこの取り組みのお知らせをしています。

この取り組みはいま、全国に広がり、ののかぜ保育園の玄関外にも掲げている「子どもたちのもう一人保育士を！」の幟（のぼり）が日本全国の保育園で掲げられる取り組みが始まっています。

ちなみに、スウェーデンでは4,5歳児の子ども18人に保育士3名の配置を、日本の5倍以上手厚くなっています。国際的にも日本の低水準はとびぬけているのが実態です。これを何とか改善していかななくてはなりません。

子どもたちの命を守り、よりよい生活が保障できるよう署名を集め議会に届けて行きましょう。

署名の取り組みをしていく上では、仕事は忙しいし、しんどくなりがちですが、一人一人が自分のできるのところから一步一步、次の世代を生きる子どもたちのためにお力を貸して下さい。

掲示板に貼ってある「山を動かす大運動」ニュースもぜひお読みください。